
プラネレスト

雨宮そら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

プラネレスト

【Nコード】

N3789A

【作者名】

雨宮そら

【あらすじ】

プラネレスト（魔法剣士）を目指す少年「ハイド」。彼が歩み始めた道には、世界の真実が隠されていた。遠い遠い未来、終わりを知る物語。

No.0 プロローグ

月が青い光を放つ夜。

民家は燃え盛り、

ただの木材と化していた。

延々と立ち上る黒い煙は星空を覆い隠し、

まるで俺と希望を分け隔てるかのように漂っていた。

母さん、ごめん。

その一言を届ける力さえ、残っていない。

悔しい。

悲しい。

苦しい。

痛い。

寒い。

眠い。

薄れていく意識の中で、

一番、一番、最後に。

天使の羽が見えた。

気がした

No.2 始まりの場所

愛用の剣とリュックを片手に、汽車から降りた。

正確には落ちた。

「着いたああ……」

情けない第一声。

まずは深呼吸をさせてください。

田舎からここ「リアルティア」まで約5時間。初めての乗り心地は最悪。

なんであんなにガタガタ揺れるんだろ、汽車って。これで普通なのかなあ。

……。うエ……。ヤバ……。気持ち悪い。
座りたい……。

こんな所で突っ立ってたら通行の邪魔になるよね……。とりあえず歩き出したけど、体が重い……。

最寄りの壁にもたれ掛かって、ズルズルと座り込む。

「はあ……」

上向いて、ポツカリと口開けて、完全燃焼状態。

何もしてないのに。

「ふう〜…」

少し気分が良くなったところで、辺りを見渡してみた。

人・人・人。

人だらけ。

人しか見えない。

下手すれば自分の村の人口より多いんじゃないかってくらい。
目が回りそう……。

で、気分逆戻り。

押し寄せてくる吐き気に絶えながら俯いてると、視界が急に薄暗く
なった。

目の前に見知らぬおじさんが立ってる…。

もしかして心配してくれてるの？

…なんて思ってたなら、その人の手に見覚えのある剣とリュックが…。
俺の荷物にそっくりだったから、隣に置いてあるはずのそれを確認
してみたんだけど…。

あれ？……無い？

俺と目が合ったおじさんは

ニツコリ、微笑んでから……

逃げた。

「あああああああ！」

そういう事ですかーっ！

「待つ……！」

回らない頭でやっと把握した。

立ち上がるのと同時に猛ダッシュで追跡。

みるみる小さくなってく泥棒……の後ろ姿。

人ゴミのせいで見失いそう……。

ああ、本格的にヤバくなってきた。

全財産を追いかけて、いつの間にか駅の外へ。

相変わらず人は多いけど、

シンプルだった駅内とは違い、華やかな装いの店が綺麗に立ち並ぶ……って

言ってる余裕も無い。

なかなか追いつけない！

「はぁ…はぁっ…」

以外と逃げ足の速い泥棒。

角を曲がったから、俺も見失わないようにスピードを上げて同じ場所に入った。

昼間なのに、全く人気の無い狭い路地。

その奥に、あの泥棒…と

新な敵っぽい大柄な男の人が居た。

泥棒はまた角を曲がって見えなくなっちゃった…。ああ。

「へっへ…」

男の人が俺の方へズンズンと向かってくる…。

やっぱりグル？

嫌な予感がして、走るスピードを徐々に落としてった。

いかつい顔をしたその人の前で停止…。

あの泥棒同様、ニヤニヤと笑みを浮かべ指を鳴らす、いかにも悪っ
て感じの人。

スキンヘッドの輝きが自信に満ち足りている。
パキパキ…と聞こえてくる音は、俺への警告。

それくらいは解るけど。

「何か用か？坊主」

「いえ…、その…」

…ヤバイ。

「言いたい事があるならはっきり言えよ」

「……そこをどいていただきたいんですが…」

ヤバイ…。

「ああん？聞こえねえなあ」

「ですから…っ！」

ヤバイ、ヤバイ…！

「貴方が物凄く邪魔なんですっ！」

「はあ！？」

ヤバイいつ!!

俺の胸倉を思い切り掴み上げてきたこの人の事じゃ無くて…。

泥棒は！？俺の全財産は！？今どこ！？？

このままじゃ取り返しのつかないコトに成り兼ねない!!

「偉そうな口聞くなよ、田舎者の分際で」

「貴方こそ…、初対面の分際で馴れ馴れしいじゃないですか」

「ナミルがでしゃばるんじゃないやねエつつつてんだよ!」

——ブチリ。

「……。」

地獄行き…？これって地獄行きですか？

もしかして殺^やつちやって良いですか？良いよね？良いよね？
じゃあ殺る。

「…水よ……」

「あ？何ブツブツ言ってるやが…」

後ろで組んでた両腕を、思い切り突き出した。
そして、

決め手の一言。

「クア・リデーター！」

「る……！！！？？」

バsshャー——ン！

まばゆい光と共に、俺の手から勢い良く放たれた大量の水が、
ム力つくおじさんを瞬時に飲み込んでいった。

いわゆる魔術ってヤツ。

「ゴバアアアア！」

…溺れてる？

少しやりすぎちゃったかな…。

ドカツ…

「ゴブアッ！ホアッゴホッ！」

押し流されたオジサンは、壁で身体を強打して激しく咳込んだ。
水を飲んでしまったからってのもあるだろうね。

「グツ…はあはあ…くそっ」

これで少しは懲りてくれたかなあ。
最後に一言文句言ってやろう。

そう思つて、睨みつけながら歩き出すと、オジサンは「ヒィィィ！」
と悲鳴を上
げながら逃げていつてしまった。

えゝ…。

「見てくれただけですか…」（呆）

「…なかなかやるわね」

…へ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3789a/>

プラネレスト

2010年10月11日02時43分発行